

オリガミアンだより

第35号 2021年2月7日発行

折り紙プレゼント

ほっこり体験を募集

コロナ禍による「ステイホーム」で折り紙の腕に磨きがかかってきたことと思います。皆さん、この日本の伝統文化をどう楽しんでおられますか。個人でひっそり楽しむのも悪いことはありませんが、当クラブの正式名称を思い出してみてください。「おとなの折り紙オリガミアン おしゃれを折り伝える」でしたね。この「折り伝える」というのは家族や友人・知人、地域社会にプレゼントし、喜んでくれる姿と一緒に共有しようという趣旨です。「折り紙は社会的な娯楽」というのが当クラブの基本コンセプトです。覚えた作品を周りの人に受け取ってもらい、一緒に喜びを分かち合うと幸せ度が倍加すると思いませんか？

皆さん、お孫さんらに渡したり、写真を送ったりして既に実践されておられると思いますが、その時の反応はどんな感じでしたか？「わぁ、じいじ（ばあば）凄い」「折り紙もらうと癒される」「私にも教えて」とさまざま反応が返って来たのではないのでしょうか。

今回は永い間、顔を合わせることが出来ませんが、その代わりに、こうした「折り紙プレゼントほっこり体験」を募集、この「オリガミアンだより」でご紹介します。皆さん、ほっこり体験をどしどしお寄せください。

字 数

制限なし（200字以内が望ましいです。もっと短くても構いません）

名 前

掲載します

内 容

いつごろ、どんな折り紙を誰にプレゼントした時、どんな反応があったか。その反応に接してどう感じたか。他人を元気にした体験も

締め切り

2月22日

送り先

熊谷のアドレスまで。吉都紀さんか合田さんに渡されても結構です
gonjuu.777@kuma.zaq.jp

内容に即した写真があれば一緒に送ってください。掲載も考えます

十月の薔薇

ルミ・ド・グウルモン

堀口 大學 訳詩集 『月下の一群』から 岩波文庫

お前がわたしてくれた薔薇の花は ほかの薔薇よりも ^{かんば} 香しい
花の匂ひのほかにお前の心の匂ひがする。

わたしの為にそれを選びながら お前は花にやさしさの ^{ころも} 衣 をきせた。
花はお前の愛撫をうけた。

花にはお前の指のほいがあふ。お伽噺の中のやうに、これ等の花は語るのだ。
よろこびに満ちた花の心から わたしの愛する言葉が出て来る。
花にはお前の匂ひがある。



ひと工夫した折り紙の渡し方

もらう楽しみが倍増します

それ自体でインパクトのある作品は徹底的に練習してから

これまで習った中では金色の鶏、金色の孔雀などがこれに当たります。何も説明は要りません。相手に差し上げた瞬間、「ああ!!」「おお！」など声が出る人が多いですね。この時、こちらからひとだけ発するなら「金色はお祝い、赤は魔除けの意味がありますから、おうちに飾ってください」。これで十分です。感動が広がります。ただし渡すのは徹底的に練習をしてからですよ。

教室で習った作品を「極める」ことで底力

新しい作品に次々と挑戦するのは大切なことです。自分が好きだと思う作品はどんどん折ってみてください。この一方で教室で習った作品を「極める」ことはそれ以上に重要かも知れません。同じ作品でも組み合わせ方、色、紙の大きさ、紙の材質、折り方の工夫をすることなどで見違えるようになります。

かつて私の甥っ子は忠実にこれを守り「パンダ」をベースに「仲良しパンダ」「親子パンダ」などいろいろ作り、友だちの転校時などにプレゼントし、「パンダの〇〇君」とクラスですっかり人気者になりました。色を変えて「緑色のパンダ」があるのも楽しいですよ。和紙のパンダも見てみたい。

作品に合った紙で折る

春になったら練習する「マジック・ローズ・キューブ」をふつうの教育折り紙で折ろうとするとヘタヘタになってしまい作品に仕上がりません。クリスマスに作った「樅の木」は「銀と緑」の両面折り紙が必要です。「鬼の顔」はやや大き目・1辺24センチの紙でないと迫力がありません。カニは単色折り紙の中で「あか」ではなく「あかね」がぴったりきます。干支の丑は渋い和紙系の紙がはまりそうで、その紙を売っているのはどこの店——というようなことも知っておく必要があります。

作品に合った折り紙を目を光らせて常に探し、手元に置いておく、という努力も大切です。同じ作品を何十枚も折るうち自然に作品に合う紙が分かってきます。世話人に相談していただいてもいいですよ。

「渡し方」の工夫

例えば箱を折って相手に渡しても印象は薄いでしょうが、フタを開けると中からミニサイズのカニ、パンダ、トナカイなどが出てきたら印象はガラリと変わるはずです。

また折り紙の中には「マジック・ローズ・キューブ」のようにマジック的な要素を含む作品も結構あります。これらをアピールしながら披露すると大変喜ばれることでしょう。

“提案”やその作品に即したストーリーを考え渡す

パンダを特集した「オリガミアンだより」第4号 4ページをご覧ください。なぜ日本にパンダの折り紙が定着したか分かります。16号2ページで掲載したように「オリガミアンだより」各号では意識して折り紙作品に合った「ストーリー」を載せるようにしています。「うさぎ」と「きつね」「たぬき」を明るく月の光の下に置けば面白いストーリーを提案することも出来ます。ちょっとした工夫もつけて折り紙を渡すようにしましょう。受け取る側の楽しみはいや増すことでしょう。